

倉吉市第1次総合計画について①

「愛着と誇り 未来いきいき みんなでつくる倉吉” 暮らしよし ふるさとビジョン”」このキャッチフレーズのもと倉吉市第1次総合計画は、スタートしました。

企画審議会（市役所職員部長級以上で構成：12回、うち8回は「倉吉将来ビジョン策定委員会」）、平成22年度に行われた**市民意識調査**（5月実施：20歳以上の2000名の市民対象、1032名が回答）、**対話集会**（9～10月、全13地区で延べ530人参加）、**ワークショップ**（11・12月の2回実施：32名の市民の視点から倉吉の強みや弱みの洗い出し、その改善のためのアイデア等を協議）、**アイデア募集**（11月）などを経て、**総合計画審議会**（2月～3月にかけての全体会と分科会）、同審議会の答申（3月）を経て平成23年4月から実施となりました。

基本テーマ：「誇りと夢を持つ定住の促進」

＜まちづくりの方針＞

- 子どもたちの笑顔あふれるまちをつくるために
- 若者たちが住み続けたい、住んでみたいまちをつくるために
- 誰もがいきいきと活躍できるまちをつくるために

倉吉市の総合計画では**基本構想**（10年間）、**基本計画**（5年：基本構想を実現するため、重点的に取り組むべき施策・事業や、個別の行政分野ごとのまちづくりの目標（目指すべき姿）及びその実現に向けた基本的な取組方針などを定めています。さまざまな変化に柔軟に対応できるように、計画期間を5年間とします。）**実施計画**（3年：基本計画を計画的かつ戦略的に進めるため、個別・具体の事業と年度別の計画を定め、毎年度の予算編成の指針となるものです。計画期間は3年間とし、毎年度、修正や補完などを行う毎年度ローリング方式を採用することで、計画と実態がかい離するのを適切に防止します。～ふるさとビジョンより）の3段階からできています。

予算も**ローリング方式**（毎年度修正や補完などを行うことで、変化する経済・社会情勢に弾力的に対応し、計画と現実が大きくずれを防ぐやり方）を取り入れてあります。予算は、基本的には単年度で行うものですが、重点事項については予算配分を確保して振り返りが行いやすくしておきます。

総合計画の下、それに沿って市職員が生きがいを持って働き、市民も市政に参画できればよりよい市になります。そのために、次のような点が大切になります。

ア)総合計画に市民がどのような関わりを持って参画しているか

イ)振り返り（P-D-C-Aの改善）のためのシステム・方法はきちんと機能しているか

ウ)職員一人一人がこの計画をよく理解して、アイデアを持って取り組んでいるか

また、私たち市民も何でも行政に言えばいいという姿勢であったり、無関心すぎることもありはしないでしょうか。ユーザーとして改善につながる発言はよいのですが、ユーザーの視点と併せて企業で言う株主意識（会社の利益につながる視点を持ち合わせる）も必要なかもしれません。また、「自助・共助・公助」という言葉がありますが、このどれうちも欠けては住みやすい市（自治体）にはなりません。

